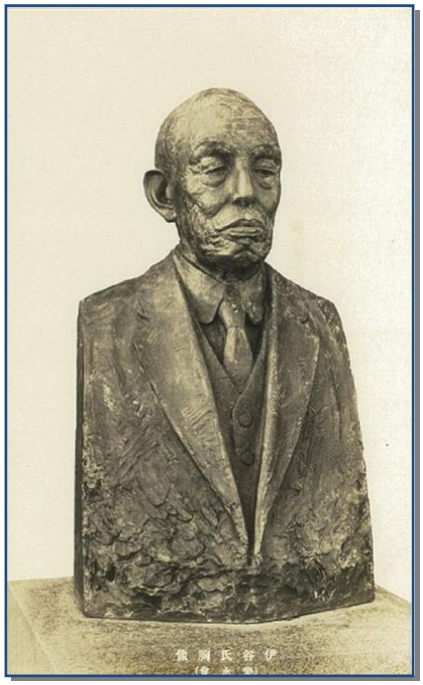
図書館常設展示　第５回

水産講習所第三代所長

伊谷以知二郎（いたにいちじろう）



場所：東京海洋大学附属図書館（品川キャンパス）

期間：2011 年 5 月 24 日（火）～9 月 29 日（木）

主催：東京海洋大学附属図書館

表紙の写真：伊谷以知二郎胸像除幕式記念絵葉書より。この胸像は建設当時、越中島の水産講習所敷地内（現在、東京海洋大学越中島キャンパスがあるところ）にあった。現在は東京海洋大学品川キャンパスの中部講堂前に建っている。

伊谷以知二郎の生涯

東京海洋大学海洋科学部の歴史は今から 123 年前の明治 21 年（1888 年）に設立された水産伝習所から始まります。水産伝習所は明治 30 年に水産講習所となり水産日本を支える多くの卒業生を輩出し昭和 24 年に東京水産大学となりました。そして平成 15 年（2003 年）に東京商船大学と統合して東京海洋大学となり、今に至ります。

伊谷以知二郎は水産伝習所の第一期生です。明治という変革の時代の中で水産缶詰の将来性に注目した伊谷は卒業後に水産伝習所に職を得て研究者・教育者・技術者として缶詰製造に携わり水産教育のみならず缶詰業界の発展にも貢献しました。また、第三代所長として、学制改革を成し遂げるなど水産講習所の充実に力を尽くしました。

常に水産教育と水産業界の発展をめざして粘り強い努力を続けた伊谷が亡くなった時には水産業界、缶詰業界、水産講習所同窓会のそれぞれの機関誌が追悼号を出し、故人の死を悼みました。

また、同窓初の総理大臣となった鈴木善幸氏が伊谷の晩年に秘書として仕え、その志の高さに深い影響を受けたことも特筆に値することと言えるでしょう。

水産に生涯をかけた伊谷以知二郎の事績をしのぶ展示をどうぞご覧ください。

トピックス１　記念すべき第一期生

水産伝習所が開所したときに伊谷以知二郎は、第一期生として入学しました。在学中の明治 23 年に他の生徒 6 名と水産養殖について分担執筆した「水産蕃殖備考」を内國勧業博覧會に出品し有効三等賞を受賞しました。後に、このときの著述を印刷出版した書籍が本学図書館の貴重書庫に残っています。また、第一期生として伝習所初の卒業生となったときの記念写真も残っています。写真には動物学の教師だった内村鑑三もいっしょに写っています。

＊以下の書名等の末尾の番号は東京海洋大学附属図書館蔵書の請求記号

1　第一回水産伝習所卒業生記念写真　明治 23 年 2 月 22 日，1890

2　水産蕃殖備考　水産傳習所，1892　004/H11/A877/羽原文庫

トピックス２　軍用缶詰製造

日清戦争の時、大日本水産会は銃後の報国運動として缶詰献納を計画しました。製造は伝習所生徒が勤労奉仕することとし、材料の提供を一般に呼びかけたところ、関沢明清氏から槌鯨 1 頭の寄贈があったためこの鯨肉を材料として缶詰を製造することとなりました。当時 30 歳の伊谷は酷暑の館山に生徒三十余名を引率して製造の陣頭指揮をとり、2,800 個の缶詰を製造し、勇魚大和煮と名付けて献納しました。次の資料はその記録です。

3　水産傳習所生徒養成囑託成績　明治二十九年十二月調　農商務省農務局　1897
092/Su51/別置図書

トピックス３　缶詰製造の研究者・教育者・技術者として

水産缶詰製造の専門家として多くの論文と著書を残しました。とりわけ、40 歳の時に米国セントルイス万国博覧会の審査官として渡米し、博覧会終了後に約 7 カ月、米国各地の水産缶詰事情を精力的に調査して多くの知見を得ました。また、アメリカでは製造されていたものの、国内では当時食用に不向きとされていたベニザケ缶詰の製造を行い、これが後の缶詰輸出の素地となりました。このほかにも水産講習所練習船の雲鷹丸にカニ缶詰製造試験を命じて初めて船上でのカニ缶詰製造を成功させたことは、工船カニ缶詰製造業の躍進につながりました。著書は次の通りです。

4　鰛油漬罐詰製造書　伊谷以知二郎, 松尾霊彦共著 水産書院 1907　667.9/I88

5　水産製造学　伊谷以知二郎著　1900 年代発行　667/I88

6　最新缶詰製造全書 ： 実験応用　伊谷以知二郎 今井次郎著 日本和洋酒缶詰新聞社　1911　588/I87

7　大日本洋酒罐詰沿革史 ： 附載 洋酒、罐詰、乳製品登録商標　風戸弥太郎編　日本和洋酒罐詰新聞社　1915　588/A82

8　最近水産製造講義　伊谷以知二郎ほか著　上巻 下巻　裳華房　1922 667/I88

トピックス４　伊谷藻（いたにぐさ）

実業家杉浦六彌氏は樺太に繁茂する海藻（学名 *Ahnfeltia plicata*）の活用法について水産講習所に相談に訪れ、伊谷から寒天製造時の配合草として用いることを提案されました。試行錯誤の結果、寒天製造が成功したとき、まだ和名がなかったこの海藻に杉浦氏は伊谷藻と命名しました。伊谷藻から作った寒天を伊谷寒天と呼ぶそうです。

9　パネル「伊谷藻」参照（原色日本海藻図鑑　増補版　瀬川宗吉著　保育社　1977 より）

トピックス５　水産講習所長として学制改革

伊谷所長は内外の意見により、水産講習所の内容充実について具体案の検討、成案、予算計上、申請、議会提出を経て学制改革を行いました。主な改正要点は次の通りです。この改革で水産講習所は学術的に、より充実した教育機関となりました。

・修業年限を 3 年から 4 年にする。
・入学資格を中学 4 年以上又は甲種水産学校卒業またはこれに準ずるものとする。
・数学・物理・語学など基礎学科を増加して基礎的学力の充実をはかる。
・専攻科を設ける。
・試験部を充実する。

10　パネル「学制改革」参照（東京水産大学百年史　通史編　1989 より）

トピックス６　関東大震災の被害からの復興を指導

大正 12 年（1923 年）の関東大震災により越中島にあった水産講習所は全焼しました。校舎が全焼したため、伊谷所長以下職員は繋船してあった雲鷹丸を水産講習所本部として、しばらくは船上で執務しました。伊谷所長は復旧予算の編成と獲得に尽力し半年後には越中島で無事卒業式を行うことができたことは後に功績のひとつとして語られています。震災の被害と復旧後の卒業式について文献には次のように残っています。

本所深川方面は初震と同時に数十ヶ所から発火した。（中略）糧秣廠に迫れる猛火は午後九時頃一挙にして商船学校を全焼し見る見るうちに水産講習所に飛び左記の建物全部を灰塵とし数百万の損害と挙示しきれない程の貴重な図書及び標本を烏有に帰せしめた。（中略）水産講習所の被害は独りこれのみに止まらない。本場の敷地は全部二三尺以上沈降して大潮時には海水がこれを蔽う有様である。（水産講習所の類焼「水産」11(18) 1923 p. 18）

水産講習所は震災後約六ヶ月間蚕業試験場内の仮校舎にて授業しつつありしが、越中島旧敷地を約五尺平均地盛し新築せる「バラック」校舎も竣工したるを以て三月二九日新築一校舎にて卒業式を挙げたり。米松、米杉の「バラック」とは言い新しき木の香は何となく一種の快感を起さしめ或は今尚ほ付近に点在する焼失残骸は過去を追想せしむるなど感慨無量なりき。（水産講習所第二七回卒業式「水産研究誌」19(4) 1924）

トピックス７　追悼号

伊谷以知二郎が亡くなった時、水産業界、缶詰業界、水産講習所同窓会のそれぞれの機関誌が追悼号を出し、二冊の伝記が出版されました。

11　楽水－故伊谷先生追悼号－　32(7)　1937　P660/73

水産講習所の同窓会である楽水会が出した追悼特集号。

12　水産界　5 月号　伊谷翁追悼号　654　1937　P660/72

13　缶詰時報　故伊谷会長追悼号　16(5)　1937　P588/1

14　伊谷以知二郎を語る　井舟萬金著　日本食糧協会　1937　289.1/I88

15　伊谷以知二郎伝　鈴木善幸著　伊谷以知二郎伝刊行会　1969　289/I88

大日本水産会で 3 年間、晩年の伊谷以知二郎の秘書として仕えた鈴木善幸による伝記。初版は昭和 14 年刊。著者は水産講習所の卒業生で後に第 70 代内閣総理大臣となった。

その他の展示物

伊谷以知二郎自筆の手紙、当時の卒業アルバム、胸像除幕式の絵葉書をご覧ください。

16　大正 5～6 年　自筆の手紙　3 通（1916～1917 年）

樺太庁水産課の高椋栄吉氏あての手紙。

17　農商務省水産講習所第二十三回卒業紀念　大正 9 年（1920）

18　絵葉書　伊谷以知二郎氏胸像除幕式記念　楽水会　1933

この胸像は現在、キャンパス内の中部講堂前に建っている。(表紙の写真はこの絵葉書)

伊谷以知二郎　略歴

1864（元治 1）	江戸紀尾井町紀州藩邸で田中伝の第三子として出生
1884（明治 17）	紀州藩伊谷久吉の死後同家に養子として入籍し家督を相続
1888（明治 21）	水産伝習所入学
1890（明治 23）	水産伝習所卒業、大日本会録事補に採用
1893（明治 26）	水産伝習所舎監
1894（明治 27）	水産伝習所製造科講師
1896（明治 29）	水産伝習所製造科主任
1897（明治 30）	水産講習所技手
1903（明治 36）	農商務省水産局技師
1904（明治 37）	米国セントルイス万国博覧会出席のため渡米し米国水産事情調査
1917（大正 6）	水産講習所第 3 代所長就任
1923（大正 12）	関東大震災。全壊した校舎を復興
1924（大正 13）	水産講習所長退任。勧業銀行参与理事就任
1933（昭和 8）	胸像除幕式
1937（昭和 12）	3 月 30 日　逝去（満 72 歳）

上記以外の主な参考文献

・明治大正水産回顧録 / 下啓助著　東京水産新聞社, 1932.12　660.2/Sh51

・日本缶詰史　第 1 巻　第 2 巻/ 日本缶詰協会編　東京 ： 日本缶詰協会, 1962　588/Y34

・海老名謙一　水産講習所長物語　XVI～XXII 伊谷以知二郎　1 -7　楽水　725（1984)～731(1985)　P660/73

■伊谷以知二郎については次のところでも紹介しています。

・図書館ホームページ　http://lib.s.kaiyodai.ac.jp/library/tenji/5itani/itani.pdf

第 10 回楽水会ランチセミナー(2010/12/16)での発表資料

・「楽水」No. 834 pp. 14-17, 2011

楽水会ランチセミナー第 10 回　中部講堂前の銅像　その 2　伊谷以知二郎水産講習所第三代所長

図書館常設展示　第 5 回　水産講習所第三代所長　伊谷以知二郎

発行日 2011 年 5 月 24 日　改訂　2015 年 6 月 29 日

編集・発行 東京海洋大学附属図書館　〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7

TEL 03-5463-0444　FAX 03-5463-0445　http://lib.s.kaiyodai.ac.jp

ⓒ東京海洋大学附属図書館

＊改訂にあたり、修正した部分：3 ページ、「杉浦弥六」を「杉浦六彌」と訂正